

# 高知県教育委員会 会議録

平成24年6月定例委員会

場所：教育委員室

## (1) 開会及び閉会に関する事項

開会 平成24年6月12日(火) 13:30

閉会 平成24年6月12日(火) 15:10

## (2) 出席委員及び欠席委員の氏名

出席委員	教育委員長	小島 一久
	委員	久松 朋水
	委員	北添 紀子
	委員	竹島 晶代
	委員	八田 章光
	委員(教育長)	中澤 卓史

## (3) 高知県教育委員会会議規則第9条の規定によって出席した者の氏名

高知県教育委員会事務局	教育次長	岡崎 順子
〃	教育次長	中山 雅需
〃	参事兼小中学校課長	永野 隆史
〃	教職員・福利課長	彼末 一明
〃	学校安全対策課長	沢近 昌彦
〃	幼保支援課長	市川 広幸
〃	高等学校課長	藤中 雄輔
〃	高等学校課企画監	森本 民之助
〃	特別支援教育課課長補佐	平野 雅代
〃	生涯学習課長	平野 博紀
〃	新図書館整備課長	渡辺 憲弘
〃	文化財課長	彼末 和幸
〃	スポーツ健康教育課長	刈谷 好孝
〃	教育センター一次長	森田 照和
〃	教育政策課課長補佐	中島 勝海
〃	教育政策課教育企画担当	溝渕 松男 (会議録作成)
〃	教育政策課主任指導主事	近森 公夫 (会議録作成)

#### (4) 議事の概要及び教育長等の報告の要旨

##### 【冒頭】

委員長 6月定例委員会を開催する。本日の付議事件第4号は、個人に関する情報を含む議案のため、非公開として取り扱うこととする。

賛成の委員は挙手をお願いします。

各委員 全員挙手

代理 それでは、付議4号は非公開の取扱いとする。

教育長 (提案説明)

##### 【付議第1号 へき地等学校等を指定する規則の一部を改正する規則議案(教職員・福利課)】

○教職員・福利課長 説明

○質疑

教育長	実際にすでに休校になっているので、へき地手当の影響もないところ。
委員長	本事件の議決を求める。賛成する委員は挙手をお願いします。
各委員	全員挙手
委員長	本事件を原案のとおり議決する。

##### 【付議第2号 平成25年度高知県立高等学校入学志願者取扱要項及び入学定員に関する議案(高等学校課)】

○高等学校課長 説明

○質疑

委員長	要項と定員に分かれているが、要項の内容に変更は無いのか。
事務局	内容の変更は無く、日程に若干の変更がある。
委員長	昨年、この要項で実施して、関係方面から意見等は無かったか。
事務局	特に無い。
委員長	25年度の定員は変更しないが、その考え方を明確にするとともに、前期・後期の定員割合を変えているのか。
事務局	そのとおり。 単科の高校では2年連続で、定員に対して実際の入学者を差し引き、空き定員の数が1学級(40人)以上あった場合で、中学生の状況が将来的にも40人を盛り返す状況にないと見込まれた場合には、40人定員(1学級)を減にしていくことになる。専門高校のように複数学科がある場合には、その学科の定員の1/2を割る状況が3年続くようであれば、その学科の廃科とともに学科改編を伴う原則でやりたいと考えている。
委員	本年3月の中学校卒業者は、昨年度から16名増えているが、来年3

事務局	<p>月卒業者の推計では 302 名減少している。特別な理由があるのか。これから 300 人ずつ減っていくのではないのか</p> <p>本年 3 月に卒業した中学生と来年度の春卒業する中学生を比較すると、トータルで 300 人ほど減ることになる。今後 10 年で持ち直したりしながら徐々に減少し、1,300 人減る推計となっている。</p>
教育長	<p>押しなべると年間 120 人から 130 人減ることになる。年によって変動しながら、今後全体として減っていくことになる。</p> <p>人口ピラミッドをみると、全くの逆三角形で今後も増える見込みは全くない。</p>
委員長	<p>平成元年が中卒者数のピークだった。その生徒が成人し、子どもを産み、その子どもが中学生になる頃であろう年は、増えるのではないのか。</p>
事務局	<p>平成 33 年までの推計はあるが、それによると、その頃は人口の減少は緩やかになるがピークは見られない。</p>
教育長	<p>毎年、高等学校の再編振興計画を検討しているので、来年度は様子を見て、再編振興計画を踏まえてその翌年には大きく再編成する必要がある。</p>
委員長	<p>このまま減少が続くようであれば、入学試験もなくなるのではないのか。再編計画のからみで、調整をとっていくわけだ。</p>
教育長	<p>毎年出生者数は減っている。昨年のように 5,242 人産まれ、その人みんなが 100 歳まで生きてとしても、県人口は 524,200 人と衝撃的な数字がある。</p>
委員	<p>室戸、高岡、佐川、須崎高校は極端に空き定員が多いが、子どもの数が減っているのか、学校の評判によるものなのか。特に室戸は室戸高校しかないが、室戸に来る生徒がいないのは学校に問題があるのか。</p>
事務局	<p>室戸は地域の生徒が減っている状況もあるが、それにプラスして安芸高校へ出たり、工業などの専門高校へ出ることもあり、室戸高校エリアでの中学生の志願者の絶対数が減っている。</p>
委員長	<p>室戸から何%の生徒が出ているのか。</p>
事務局	<p>24 年度の状況は 44%。</p>
委員長	<p>総合学科を作った時に、地域の生徒の 60%を目途に入学させることを目標にしていたが、当時の状況とあまり変わらないようだ。</p>
委員	<p>学校が荒れていて志願しないことはないのか。</p>
教育長	<p>荒れた時代もあったが、それは現在特に無い。背景として、子どもが減っている中で、進学させたい、専門を学びたいと抜けていることがある。もう 1 つは子どもの数が減っている中で、私学の定員は変わっておらず、必然的に公立の数が減っていることもある。</p>
委員長	<p>高知県で、公私の比率はどれくらいか。</p>
事務局	<p>全体が 7,200 人で、私学が 1,700 人なので、約 24%である。</p>

委員長	比率は以前とあまり変わっていないようだ。土佐の教育改革前くらいは7:3くらいだった。
教育長	一時より私学も減っているとは思う。平成元年生まれの子どもが11,000人くらいだった。今中学校へ入学してくるのは、平成8年生まれの子どもたちで、7,000人くらい。私学の定数が減らないと仮定したら、私学の割合はどんどん高くなる。
委員長 委員	私学に流れないように公立は確保しなければならない。 再編を考えた時に、地域に1つという話があったが、室戸や清水では無くなることはないのか。学校として成り立っていくのかと心配である。
教育長	長い目でみたら1クラスになるのではないと思われる。過疎地域では、全体の平均減少率よりも減少率が高い。
委員長	1学級になれば分校みたいなもの。生徒の個性に応じたカリキュラム編成ができなくなる。総合学科では、生徒に応じたカリキュラムを提供しているが、1学級では難しくなる。
教育長	入学許可者数でみると、梶原、嶺北高校は1クラス規模で、四万十高校も1クラス規模になる。このままいけば、室戸や清水もいずれそうなるだろう。
委員長	室戸高校の「産業社会と人間」の発表会を見に行ったことがあるが、熱心に取り組み、立派に発表もしており、よく頑張っている印象を受けた。
委員	今、単一学科で40人以上の定員で、40人以上の定員割れが2年続くと減になるとのことだが、23年度から続けてではないのか。
教育長 委員	考え方を改めて再整理したもので、24年度を基準年として考える。それ以前のことは見ないことか。
教育長 事務局	参考として見ることになる。 そのあたりをもう一度しっかり整理をして、24年度を基準とする考え方で進めようとするもの。今までもそうした考え方をもちながらも、状況を考えて柔軟に対応してきたが、今回そのあたりを整理したもの。
教育長	学校現場や地域社会もあることなので柔軟に対応してきた。地域社会もあるので、そこは議論しながら検討する必要がある。
委員	ルールは明確になったが、ルールの一元化により、逆に地域性を考慮できなくなり、それでいいのかと心配する。 来年、300人くらいの空き定員をどこに振り分けられそうだと予想しているのか。300人をどこかに割り振っていくのは大変なこと。ある程度地域性を考えると予想が付くような気もするが。
事務局	基本の定員管理で考えた場合には、先に述べたようになるが、その考え方で割っていくと、2学級規模の学校で入学者が30数人であれば、1学級落とすことになる。再編計画が25年までであるが、その中

	<p>では2学級規模が最低ラインで、適正規模を4～8学級と考えている。そこを再編振興検討委員会で適正規模等をしっかり議論いただいて、一定の方向性が出てきたときに、入学定員の管理の考え方を変えなければならない部分も出てくるかもしれない。</p>
委員	<p>再編計画に大部分のことを任せないといけないと思うが、現実はこのマイナス300人がどの辺に来そうなのか予測はあるのか。例えば、大きいのは東部の120人と高知の140人。昨年のデータをみると、中央部はほとんど割れてなく、充足されていて高知に皆集まった。するとこの300人を東部と高吾、幡多で振ったら大変。そんなことになりうる予想なのか、それとも今回の300人については、中央部でも空き定員を出すような予想なのか、地域性を考えたらどうなのか。</p>
事務局	<p>おそらく高知は空き定員が少ない状態で、地域の方に空き定員が多く出ると思われる。</p>
委員	<p>そうすると、ほとんどこの300人を東部と高吾、幡多で割り振る結果が来年出るわけか。</p>
教育長	<p>定数全体で見れば、300人ではなく、1,000人くらいは空き定員がある。まず普通科、総合学科の単科のところが一番削減しやすい。一方で専門学科はそれぞれの科があり、それぞれの科に空き定員がある状況が長い間続いてきており、全体としては相当ある。我々が示した考え方は、定数削減の問題。中央部と周辺部との関係をどうするのかの議論は、再編計画の中での学校の統廃合に関わってくる大きな話ではないかと思っている。ここでは、実務的な定数をこのように削減していくということ。全て中央部に集まって来て、それで良しとするかは、また別の高い次元の話。</p>
委員	<p>先程のルールだと、今の流れに沿って高知市に集中し、郡部を減らさざるを得ないことが予想される。</p>
教育長	<p>定数削減の俎上にのせることであって、様々な事情にも配慮しながら、最終決断を出すことになる。</p>
委員長	<p>今の数字は、確実に適用できるか現実には難しいところもあるのではないか。</p>
教育長	<p>室戸や須崎は生徒数が減ってきた中で、単純に削減することになるのではないかと思われる。</p> <p>例えば、専門学科は大変難しく、県内には造船科は須崎工業高校の1校しかないが、来る生徒は少ない。来る生徒が少ないからとすぐ無くすのは無理がある。高知県の造船科をどうするか議論が別途にあることから、学科の改編も含めてどうしていくかの議論になっていく。</p>
委員	<p>今回示したのは、再編の基本的な考え方で、2年間で結論を出すことにはならないかもしれないということか。</p>

教育長 委員長	そのとおり。 3学級を2学級に減らすのは簡単だが、1学級に減ってきたらこの計算のようにはなかなかいかない。そこは地域の意向も踏まえた結論を出さなければならなくなる。
教育長	城山高校は1学級から2学級にすることで志願者が増え、1学級以上の生徒が来ている。縮小していく中で、上手くやっていくのは非常に難しい。1つの目安としてこうなれば検討の俎上にのせるということ。配慮すべき要因は様々あるので、それを踏まえて進めることになる。
委員	全体として子どもの数が減り、これだけ定員割れしているが、中学校の勉強意欲にどんな影響を及ぼしているのか分析しているか。中学校からすれば大きな影響を与えていると思う。
事務局	前期・後期・再募集と3回のチャレンジ機会があることで、中学生にすれば、チャレンジしやすくなり、定員に空きがあればになるが、地元の学校は最後に臨むことにするなどして、全体としては入りやすくなっている。
事務局	学習意欲に関するアンケートを取ったわけではないが、中学校を回ると、地域に高校が無くなることで危機感を持ち、学力が上がったとのコメントが1件あった。
事務局 委員	定員の緩いところでは、学力の幅が広がる実態がある。 高校等、どこにも行っていない生徒はどれくらいいるのか。
事務局	全体で7,000人くらいの中学校卒業者がおり、全くどこにも行っていない生徒は50人程度。高校進学率98.4%は過去最高。この制度を続けるなかで、どこにも行っていない子どもの数は減っている。
教育長	大阪では、定員を割った高校は統廃合する話があるが、高知県とは状況が違う。他県は公立を厳しくして、公立を落ちた子が私立へ行くようになっており、位置づけが逆になっている。
委員	岡豊、市商の体育科の両方が前期100%と決めると、そこを落ちた生徒の行きたいところがなくなるのではないかと。
事務局	22年度の入試結果を見ると、全県一区になり両校とも寮がないことから、東部エリアからは岡豊、市商へは高吾学区からと一定通学範囲の中でさび分けているようである。
委員長	100%にすることで、本来前期で落ちていた生徒が、これにより前期に入りたい学校に入ることができる。不合格を経て、合格になることを避けられるメリットもある。
事務局	同じような科が2つできるので、どちらに行くかで競合してくる部分が出てくる可能性はある。
委員	今年やってみないと分からない部分があるということですね。
委員長	1回落ちて、同じところを再受験する生徒もいるだろう。
教育長	志願先の変更もある。

委員長 各委員 委員長	本事件の議決を求める。賛成する委員は挙手をお願いする。 全員挙手 本事件を原案のとおり議決する。
-------------------	--

【付議第3号 平成25年度高知県立中学校入学志願者取扱要項及び入学定員に関する議案（高等学校課）】

○高等学校課長 説明

○質疑

委員長 事務局 委員 事務局 委員 事務局	要項の内容は昨年と変わっていないのか。 変わっていない。私立の入試と同じ日にしている。 試験は無いのか。 作文及び適性検査を試験として行っている。 それはどういうものか。2倍の倍率があるが。 競争試験としての学力検査は行っていない。適性検査で、言語、コミュニケーションにおける適性、自然科学における適性、問題解決能力といった視点で問題を作り、そこで適性を見ている。
教育長	中高一貫のエリート校を作るのはダメで、過度の学力検査はいけないと文科省の指導がある。
委員長	過度の競争を避ける目的があるようで、学力試験なるものはしないと付帯決議している。抽選はしていないのか。
事務局 委員 事務局 教育長	平成10年の立ち上がった当時は抽選を行っていた。 学校推薦はないのか。 ない。 県安芸中は定員に足りておらず、県安芸中へ行くと市立中の生徒が減ることがあり、80名だった定員を70名にしている。県中村中も志願者は多いが、地域の子ども数が減っているのので、70名にしている。
委員長 教育長	安芸校下の生徒は、中村校下の生徒数の半分と非常に少ない。 安芸校下であれば、勉強したいと思えば、鉄道で高知市内へ通学することができ、半分は中央区に取り込まれていることから、余計に県安芸中への進学が少なくなっている。
委員長	県安芸中へ入れようと思えば、芸西から西の生徒を取り込むように魅力を付けないといけない。当初は野市などからも来ていた。
委員 事務局	県南中の平成14年からの応募者数の経緯を説明してほしい。 当初4学級、160名で募集をかけていた。私立のような中高一貫の学校をと通学圏にある潮江中校区の生徒を中心に多く来ていたが、様々な課題を抱え、学校が不安定なこともあって、徐々に敬遠される状況もみられ、減少傾向にあった。平成20年に1クラス減らすことで、一定の倍率にもなり、落ち着いてきはじめ、生活習慣等も含

事務局	<p>めて良くなっている。</p> <p>中教審から出た中高一貫は、多様なお子さんを引き受けて、総合的な支援を行っていく理念で創設された。しかし高知県の場合は私学問題があって、現実には高知市内の中学校は荒れた状態が続いていて公教育への不信が根底にあった。そこに私学へ行きたいが行けない層の子どもたちも県南中へ集中した。特に県南中は、南海中校区、潮江中校区など南部の子どもたちが集中しているが、要は公立不信なところへ県立の一貫校が新設されたので、当初はたくさん集まった。しかし、その中には勉強をしていない子どもも多く入っていることから、南中学の授業に付いていくことができなくなり、評判も悪くなった。それならば別に県南中へ行かなくてもいいのではと徐々に減った。選抜方法も問題になり、選考方法を変えた時期から落ち着いてきた。</p>
委員長 事務局	<p>一生懸命勉強した子どもが入れないではないかと。</p> <p>今、県南高校では、県南中から上がってきた子どもが一生懸命勉強している。県南中も含めて南海中も潮江中もお互いに頑張っている。</p>
教育長	<p>平成 19 年度に学テを行った時には、全国平均より下であったが、年々改善されてきて平均より上になっている。国公立大学への進学者も安芸高校や中村高校よりも多くなっている。</p>
委員長 各委員 委員長	<p>本事件の議決を求める。賛成する委員は挙手をお願いします。</p> <p>全員挙手</p> <p>本事件を原案のとおり議決する。</p>

【付議第 4 号 高知県スポーツ推進審議会委員の任命議案（スポーツ健康教育課）】

- スポーツ健康教育課長 説明
- 質疑

	【非公開議案】
--	---------

(5) 議決事項

付議第 1 号から第 4 号

原案のとおり議決